日比谷アメニスグループが提供する環境価値

私たち日比谷アメニスグループでは、持続可能な社会を実現するためにさまざまな活動を行っています。ここでは、活動が社会に提供している環境価値を樹木の植樹本数・緑地の管理面積・使用電力の再エネ率・紙の使用削減量として定量的に示す各種データをご紹介します。

1年間に植えた樹木の本数

造園工事の仕事では、都市にたくさんの木を植えています。みどりを増やすことで、都市環境の改善につなげています。

高木の植樹本数 **6,548本**

中低木の植樹本数 **408,869本**

私たちが行う工事で、1年間に植えた樹木の本数を集計しています。樹高3m以上を高木、樹高3m未満を中低木としています。（対象期間：2021年4月～2022年3月）

炭素固定量の算出に当たっては、アメニスグループにおける2021年4月～2022年3月の期間に植樹した高木類の総本数を基に、国総研（※2）緑化生態研究所「都市緑化樹木の CO_2 固定量の算出」を引用、胸高直径 9cm 未満は便宜上 9cm として扱い計算を行いました。また、株立形状の樹木については、弊社の蓄積したデータを基に、樹高から胸高直径を算出する回帰式を用いて計算を行いました。

樹木の年間炭素固定量

1,468t/年

日本人の家庭における年間 CO_2 排出量※1の524世帯分にあたります。

私たちが1年間に植えた樹木が固定する CO_2 の総量です。公園の樹木や街路樹は、まちの景観をつくることはもちろん、炭素を固定することなどにより、生態系として私たちの生活や地球環境に様々な恵みをもたらしています。

※1「環境省　平成31年度 家庭部門のCO_2排出実態統計調査の結果（速報値）について」より(世帯当たりの年間CO_2排出量は2.80 t)
※2 国土交通省 国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/naiyo/co2/co2.html

植樹本数 樹種別内訳

2021年4月～2022年3月の期間における、アメニスグループの工事で植樹した樹木の分類別上位10種です。

※ ◎印は東京都の在来種を表します。

分類別

分類	数量	単位
高木	6,548	本
中木	31,512	本
低木	377,357	株
地被	627,529	Pot
地被マット物	2,275.8	m²
芝	38,848.4	m²
種子	70,268.4	m²
ヤシ	36	本
竹	146	本
観葉植物	5,669	本

高木｜3.0 ≦ 樹高 < 5.0

分類	数量	単位
◎シラカシ	1,038	本
◎モチノキ	280	本
◎アラカシ	279	本
ソヨゴ	257	本
シマトネリコ	238	本
ヒイラギモクセイ	221	本
ナナミノキ	136	本
◎イロハモミジ	129	本
エゴノキ	104	本
ヒメユズリハ	94	本

高木｜5.0 ≦ 樹高 < 8.0

分類	数量	単位
◎シラカシ	353	本
シマトネリコ	116	本
クスノキ	101	本
◎アラカシ	77	本
◎ヤマボウシ	69	本
マテバシイ	66	本
◎タブノキ	59	本
◎カツラ	55	本
クロガネモチ	49	本
◎イロハモミジ	45	本

高木｜8.0 ≦ 樹高

分類	数量	単位
シマトネリコ	65	本
◎ケヤキ	32	本
クスノキ	25	本
◎シラカシ	22	本
◎エノキ	12	本
マテバシイ	11	本
◎タブノキ	10	本
◎コナラ	10	本
アメリカフウ	9	本
◎アラカシ	8	本

中木

分類	数量	単位
ヒイラギモクセイ	10,076	本
レッドロビン	5,166	本
レイランディ	2,488	本
◎サワラ	2,294	本
ベニカナメモチ	1,691	本
◎マサキ	1,311	本
◎シラカシ	850	本
◎イヌマキ	760	本
トキワマンサク	700	本
ウバメガシ	690	本

低木

分類	数量	単位
ヒラドツツジ	73,289	株
サツキツツジ	38,541	株
シャリンバイ	25,150	株
◎アセビ	14,701	株
オタフクナンテン	13,249	株
フイリアオキ	12,322	株
クルメツツジ	11,021	株
ホソバヒイラギナンテン	10,720	株
アベリアコンフェッティ	10,271	株
◎ハマヒサカキ	9,083	株

地被

分類	数量	単位
コグマザサ	88,432	Pot
◎ジャノヒゲ	83,397	Pot
◎キチジョウソウ	80,721	Pot
◎ヤブラン	25,248	Pot
フッキソウ	22,268	Pot
フイリヤブラン	21,488	Pot
ヒメイワダレソウ	19,013	Pot
◎テイカカズラ	18,542	Pot
◎ヤブコウジ	14,751	Pot
ノシラン	14,212	Pot

都市公園やマンション・オフィスビル等の緑地管理面積から算出しています。（対象期間：2022年4月～2023年3月）

緑地の管理面積

1,228ha

東京ドーム 261 個分の面積にあたります。

都市公園やマンション・オフィスビル等の豊かで快適なみどりを育むことで、魅力ある環境を生みだしています。これらを通じ地域社会や生物多様性に貢献しています。

みどりの価値の享受人数

公園の利用者数 **3,054万人**

緑地を管理するマンションの総戸数 **17万9千戸**

みどりがあることで、その空間を使う人たちは、環境、暮らし・安全や活力など様々な価値を受け取っています。

私たちが管理運営に携わる公園等の2022年度の年間利用者数と緑地を管理するマンションの総戸数です。（対象期間：2022年4月～2023年3月）

日比谷アメニスグループが管理している都市公園やマンション、オフィスビル等の緑地において、植物や昆虫、鳥類などの生きものに関する記録や調査、保全活動等を行っている案件を集計しています。（2023年7月時点）

生きもの調査の取り組み件数

95件

豊かなみどりの空間には、そのみどりを住処にする様々な生き物が集まってきます。

生きもの調査から得られた生物多様性の状況をそこに係る人たちと共有することは、さらに多様な生きもの達が生息する環境を生みだす活動へと繋がっていきます。

前年度からの紙の使用削減量

今年度の紙の使用量 1,257,829 枚（前年度から6.8％削減）

オフィスにおけるペーパーレスの取り組みを継続し、紙の使用量を削減することができました。事務的な業務についても、環境貢献度を高める取り組みを推進しています。

92,941枚

2022年4月～2023年3月を今年度、2021年4月～2022年3月を前年度とし、日比谷アメニスグループ各事業所内のコピー機の印刷枚数カウンター数量を集計しています。

元請工事から排出される産業廃棄物量

弊社が施工管理を行う
11 物件の産業廃棄物量です。

施工現場では様々な廃棄物が発生します。これらの廃棄物は元請業者が「排出事業者」として処理責任を負うことになります。廃棄物量を全社的に管理するほか、廃棄物の 100%リサイクルも目指していきます。

木くず	396 m³
廃プラ	1,222 m³
混合廃棄物	322 m³
剪定枝	1,883 m³

2022 年 4 月～ 2023 年 3 月の期間に施工を行った、日比谷アメニスが元請となる施工現場の産業廃棄物量を集計しています。

再エネ率・CO_2 排出量は、2022 年 4 月～ 2023 年 3 月の期間の日比谷アメニスグループ各事業所・工事案件の各事務所・PPP 事業の管理運営案件の各事務所における消費電力量や電気料金から推計しています。

使用電力の再エネ率

再生可能エネルギー電力への切り替えにより
削減できるCO_2 排出量の想定値 941t-CO_2/年

当社が管理運営する都市公園で再生可能エネルギー電力への切り替えを開始しました。2022年には夢の島熱帯植物館、港区3地区公園にて切り替えを実施し、再エネを使用する公園数は増加しています。一方で電力使用量や運営する公園の増加により再エネ率はほぼ横ばいとなっています。引き続き2030年までに全ての公園での切り替えを目標に取り組んでいきます。

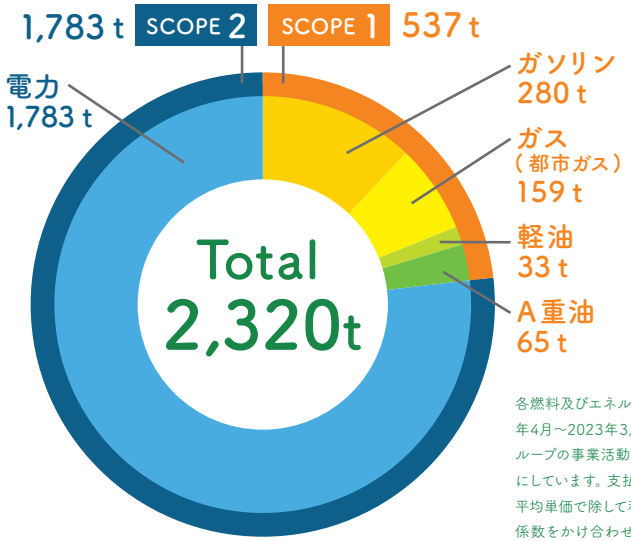
2022 年 4月時点	36 %
⇓	
2023 年 3月時点	35 %

当グループの CO_2 排出量

SCOPE 1
合計 **537t-CO_2/年**
ガソリン 280t-CO_2/年、ガス（都市ガス）159t-CO_2/年
軽油 33t-CO_2/年、A 重油 65t-CO_2/年

SCOPE 2
合計 **1,783t-CO_2/年**
電力 1,783t-CO_2/年

前年度に続き、事業活動に伴うCO_2排出量について、SCOPE1および2の定量化を行いました。それにより、SCOPE2の電力の割合が大きく、昨年度よりも増加していることを認識することができました。これは、COVID-19の影響が和らぎ、施設使用頻度が向上したことにも起因していると想定されます。今後もSCOPE1、2双方の削減に向けた取り組みを行います。



各燃料及びエネルギーのCO_2排出量は、2022年4月～2023年3月の期間の日比谷アメニスグループの事業活動における支払い料金をベースにしています。支払い料金を月別または年別の平均単価で除して利用量を算出し、各CO_2排出係数をかけ合わせることで推計しています。また、試算には下請け工事も含まれる一方で、協力会社の利用量は含まれていません。